

## 株主から出資してもらった 場合は？

慣れないうちは取引があったとき、どんな勘定科目で処理すればよいのか、悩むケースもあるでしょう。そうした勘定科目の取扱いについて、新人さんと一緒に、事例をもとに学んでいきましょう。



**新人さん：**先輩、社長が新たに株主を募集するって言ってましたけど、会社のオーナーが変わるってことなんですか？

**先輩：**いや、そうではなくて、新たに株主を募集して資金を集めるんだ。つまり、新しく株式を発行して新しい株主に買ってもらって資金調達をする、いわゆる増資だよ。

**新人さん：**増資すると、会社にはその分の資金が増えるのでよさそうですが、見ず知らずの人が株主になると、もめごとが起こりそうですね。

**先輩：**公募増資ならそのおそれもあるかもしれないが、今回は、社長の親戚や古くからの取引先に株式を引き受けてもらう第三者割当増資だから、問題はないと思うよ。

**新人さん：**なるほど、株主からの資金調達といってもいろいろあるんですね。

### ○解説

「資本金」とは、会社設立や増資の際に、株主となる者からその株式会社に対して、金銭の払込みまたは金銭

以外の財産の給付をした額のうち、会社法で定められた法定資本の額を処理する勘定科目です。

会社法上、資本金の額は、原則として、払込みまたは給付された額と定められています。

ただし、払込みまたは給付された額の2分の1を超えない額は、「資本金」として計上しないことができます。「資本金」として計上しないこととした額は、「資本準備金」として処理されます。

払込みまたは給付された額のうち、いくらを「資本金」とするかは、設立総会や新株発行の株主総会で決定されます。

会社法では、最低資本金の額に係わる規定が廃止されたため、株式会社の設立に際して出資すべき額の下限額の制限はありません。これにより、資本金1円の会社の設立が可能となりました。

募集株式の引受人は、払込期日に払込取扱金融機関において、払込金額の全額を払い込まなければなりません。また、引受人は払込期日に株主となるため、払込期日前までは「新株式申込証拠金」として処理して、払込期日に「資本金」に振り替えます。



### ケース1 会社を設立した場合 —原則規定—

会社設立に際し、発起人より普通預金1,000万円の出資の払込みを受け、その全額を資本金とした。

<b>【借方】</b> 普通預金	10,000,000	<b>【貸方】</b> 資本金	10,000,000
------------------	------------	-----------------	------------

### ケース2 新株を発行した場合

事業拡大に伴う資金調達が必要になったため、普通株式1,000株（1株5万円）をA社に割り当てた。

・**払込時：**払込期日前にA社から5,000万円が普通預金に振り込まれた。

<b>【借方】</b> 普通預金	50,000,000	<b>【貸方】</b> 新株式申込証拠金	50,000,000
------------------	------------	----------------------	------------

・**払込期日：**払込期日に全額を資本金として処理した。

<b>【借方】</b> 新株式払込証拠金	50,000,000	<b>【貸方】</b> 資本金	50,000,000
----------------------	------------	-----------------	------------